

至宝の西洋名画1000点を 「陶板名画」で楽しむ美術館

古代壁画から現代絵画まで、原寸大に再現された陶板名画約1000点で、日本にいなから世界の美術館を体験できる大塚国際美術館の魅力とは。

ミケランジェロ《システイナ礼拝堂天井画および壁画》
天井の微妙なカーブを再現するため、陶板を割らずに曲げる技術を新たに開発したという。



現地に行った気持ちで
名画を楽しむ環境展示

鳴門市にある大塚国際美術館は、世界に類を見ない「陶板名画美術館」です。陶板名画とは、世界の名画を独自の技術で陶器の板に焼き付けて複製したもの。紙やキャンバスに比べ色が経年劣化せず、約2万色に及ぶ焼き物用絵の具で表される色彩の他、絵の大きさ、表面の質感や筆遣いまで忠実に再現した名画は、原作を所蔵する美術館や画家の遺族からも賞賛される完成度を誇ります。

美術館は、この地で創業した大塚グループの創立75周年記念事業として1998年に開館。世界26カ国190余の美術館が所蔵する西洋名画約1000点を間近で鑑賞することができ、中でも古代遺跡や礼拝堂などの壁画を再現した環境展示は必見です。

例えば「システイナ・ホール」では、ミケランジェロが描いた天井画と正面壁画「最後の審判」を、立体再現しており環境空間ごと味わうことができます。印象派の画家・モネが晩年に描いた「大睡蓮」は、屋外に展示。時間や天候、季節ごとの光によって移り変わる表情を楽しめることでしょうか。そんな臨場感のある展示が、大塚国際美術館の大きな魅力となっています。

約2000年色褪せない 陶板名画の使命とは

屋外展示が可能なほど耐久性に優れ、約2000年経っても色褪せることのない陶板名画には、「現在の美しい姿を後世に残す」という使命も。例えば、フェルメールの作品数は37点（諸説あり）とされる中、当館では10点を展示。同じ部屋で鑑賞できるのも醍醐味の一つでしょう。

さらには、第二次世界大戦中に兵庫県芦屋市で焼失してしまった「ヒマワリ」や、複数の国に絵画が散逸している「エルゲレコの祭壇衝立復元」など、失われた作品を再現する活動にも注目が集まっています。もう見ることができないという意味では、ダヴィンチ作『最後の晩餐』修復前の姿を展示し、修復後と見比べられるのも貴重な体験になるはず。広々とした館内は、鑑賞ルートをとるだけでも約4km。一日がかり、あるいは一泊して世界の名画を旅してみたいいかがでしょうか。



《モネの「大睡蓮」》
太陽光や雨風にも耐久性があることから屋外展示を実現。



フィンセント・ファン・ゴッホ《ヒマワリ》
戦禍により焼失した「ヒマワリ」を始め、ゴッホの花瓶の「ヒマワリ」全7点を展示。

ヤン・フェルメール《音楽の稽古》
完璧な透視図法で描かれた名作。



●写真は、大塚国際美術館の展示作品を撮影したものです。

《エル・グレコの祭壇衝立復元》
ナポレオン戦争で破壊され、絵画も散逸した「幻の祭壇」。6点揃った状態で鑑賞できる。



レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》
修復前と修復後を向かい合わせに展示しており比較鑑賞できる。



建物のほとんどが山の中にあり、日本最大級の常設展示スペースを持つ大塚国際美術館。

大塚国際美術館

住所 徳島県鳴門市鳴門町
鳴門公園内
電話 088-687-3737
料金 一般3,300円
(公式オンラインチケット
前売り3,160円)
開館 9:30~17:00
月休(祝日の場合翌日休・
1月は連続休館あり、8月無休)
交通 徳島空港より路線バス・タクシー
約30分、JR鳴門駅より路線バス・
タクシー約15分
HP <https://o-museum.or.jp/>

お楽しみ周辺SPOT 鳴門の渦潮スポットと人気の道の駅

瀬戸内海と紀伊水道の干満差により激しい潮流が発生する、鳴門の渦潮。大鳴門橋内にある海上遊歩道「渦の道」は、海上45mの展望室のガラス床から大迫力の潮流を体感できます。より間近に渦潮を楽しむには、高速観光船「うずしお汽船」、渦潮のメカニズムや大鳴門橋について学ぶには、ミュージアム「大鳴門橋架橋記念館エディ」もおすすめです。

鳴門の食を味わうなら「道の駅くるくる」へ。新鮮な海の幸を味わえるお食事処を始め、徳島ならではのおみやげを探すのにもピッタリなスポットです。

道の駅内「大渦食堂」の「大渦5色丼」



真上から渦の迫力が楽しめる「渦の道」

◎大鳴門橋遊歩道 渦の道 TEL.088-683-6262
道の駅くるくる TEL.088-685-9696

四国周遊の際には、ぜひ道後温泉の「にぎたつ会館」や高知市内の「高知会館」をご利用ください。詳しくは「やすらぎの宿」HPをご覧ください。



<https://www.kourituyasuragi.jp/>